

資料3 理科の指導過程（一部略）

段階	学習内容・活動	フローチャート	教師のはたらきかけ	評価
課題提示 (つかむ)	1 鉄と木の重さの比較 ・重さについて発表する	はじめ 発問 発表	1 鉄と木ではどちらが重いと思いますか。	①目標行動の把握について 一時間の学習の中で、生徒に、何が「できる」「わかる」ようになればよいのか。そこに到達するまでに何が「わかって」いなければならないのか。そして更に必要なことは、ゴール（到達目標）が何であるかを生徒が知っていることが大切である ②形成的評価について
	2 学習のねらい ・本時のねらいをとらえる。	発問 ◇	2 どちらが重いかを調べるにはどうすればよいですか。	
実験の計画 (わかる)	3 実験の計画 ・測定項目や方法を考える。	発問 話し合い ◇	3 何で測定したらよいですか。 ・金属1cmの重さを求めるには何を測定しなければならないか。	四 研究の成果と今後の課題 研究の成果 生徒の実態把握に工夫がみられる ① 目標行動を分析し、具体的な下位目標行動をたてて指導過程に位置づけた。学習活動の中でこれらの下位目標行動を明確にチェックし、フィードバックを行なった。（資料3） ② 指導過程の各段階で、指導法や評価に創意や工夫がみられるようになった。 ③ 思考の場とその時間の確保がなされ、指導過程に適切に位置づけるようになった。 ④ 今後の課題 ⑤ 学業不適応生徒を十分配慮し、学
	4 計画の発表 ・測定項目と方法を発表する。	指示 発表 No. 評価1 YES 80%	4 グループでまとめたものを発表しなさい。 ◎金属の重さは上皿てんびんで測る。 ◎金属の体積はメスシリンダーで測る。	
実験 (とりくむ)	5 実験 ・計画にそって実験（測定）をする。	指示 実験 No. 評価2 YES 80%	5 それでは各グループごとに実験（測定）をはじめなさい。 ◎はかりのふれが左右等しい所を確かめ取りかかっているか。 ◎めもりの読みとりが正確か。	評価1 項目を測定し、発表が方法で発表を確認する。 評価2 上皿てんびんやメスシリンダーを使い測定が正確か。観察・実験カードを確認する。

①目標行動の把握について
一時間の学習の中で、生徒に、何が「できる」「わかる」ようになればよいのか。そこに到達するまでに何が「わかって」いなければならないのか。そして更に必要なことは、ゴール（到達目標）が何であるかを生徒が知っていることが大切である
②形成的評価について

四 研究の成果と今後の課題
研究の成果
生徒の実態把握に工夫がみられる
① 目標行動を分析し、具体的な下位目標行動をたてて指導過程に位置づけた。学習活動の中でこれらの下位目標行動を明確にチェックし、フィードバックを行なった。（資料3）
② 指導過程の各段階で、指導法や評価に創意や工夫がみられるようになった。
③ 思考の場とその時間の確保がなされ、指導過程に適切に位置づけるようになった。
④ 今後の課題
⑤ 学業不適応生徒を十分配慮し、学

習意欲を高めるなど、教科を通じた学業指導の充実を図っていく必要がある。
(2) 基本的学習態度の訓練を、なお一層強化し、生徒の自主的学習態度の育成について、さらに努力する必要がある。
(3) 生徒の実態を的確に把握する方法を、さらに検討し、指導と評価の一体化を強め、授業の充実に一層努力する必要がある。
以上の点を十分踏まえ、この研究を単に二年間だけのものとせず、今後も継続していかねばならない。
特に人間性豊かな生徒の育成については常に本校教育の根底にすえて、さらに職員間の共通理解を深めながら、効率的な研究をすすめていく必要がある。

